

Vol.97 『金田へ「MOW」が60ha 大型 SC 計画

袖ヶ浦北口開発凡50ha 市が施行』 (平成18年10月10日)

8月の下旬にC&C通信、日刊中央新聞、日刊建設新聞、9月10日に読売新聞がIMI(品川区大井)の金田東地先で凡60ha 仮称MOW計画を発表しました。

この計画は既に計画進行中の木更津南部築地計画を大幅に上回る外資が導入された巨大モールであります。MOWとはモール・オブ・ザ・ワールド・キミサラス・プロジェクトの略であります。工事着工は21年が予想されており、丁度、築地地区のオープンの年と重なります。この巨大な敷地は三つのコンセプトに分かれており、第一スペースは、門前仲町商店街、結婚式場、集宴会場、地場産ワイナリー。

第二スペースはアミューズメントパークを中心に欧米、日本のデパート、大型店、専門店、リサイクル、シネマ、グルメ、大型家具店等。第三スペースは、工芸村、スポーツセンターミュージアム、クリニック、高層マンション、介護付ホテル、リタイアシルバー計画等を持ち、金田東開発総面積凡160ha(48万坪)の中の60ha(18万坪)の更に背景広大な空間を持った所であります。

隣接する袖ヶ浦市も昨年10月住民投票によって反対された、袖ヶ浦駅北側地区整備事業が凡49haはずでに都市計画事業として決定されている事業ですので、検討協議会を再発足させて協議を求めたが折り合いがつかず、千大工学部北原教授、村木助教等四名の学識経験者によって市民が納得する方法で実現の方向で進めて行きたい、金田東地先の計画が実現すれば隣接しており、中野一畑沢線、バスターミナルからの幹線道路も想定していますので、実現すれば金田東、袖ヶ浦地区開発は市原への後背地を抱えて断然有利な環境と言えますと袖ヶ浦市の幹部の方の話でした。

気が付くことは住民感情で是非論を協議すると思わぬ方向へ結果が出ますので、学識経験者のデータ、考え方を中心に判断する様に計り、地域エゴ、感情論は避ける事が大切であります。

このMOWを構想されている一人がこんなことを書いております。

「まちづくり三法」によって中心市街地を活性化させようとする事は結構なことだ。駄目になったのは中心街に関わる人達が市街地商店街としての努力をしなかったことなど、力不足だったからだ。

現状では法を変えても旧市街地の活性化は無理がある。商いで活性化させようとするならば、名物飲食店街を作る以外には考えられない。エントロピーの法則から言っても歴史の流れに逆行すれば自滅します。

今一つは文化価値のある街並をどう実現させるかです!!……とありました。

飲食街づくり、今四市では最も繁栄している飲食店街は君津だと思えます。その街が飲酒運転の厳しい取締りで、急激にさびれています。夜間の輸送対策が急務です。飲食に係る個人、組合、納入業者、受益者がそれぞれ負担して昼の巡回バスを夜も巡回してもらう様な方策を進めたいものです。行政など他力本願で考えるのではなく自分達で、生残り策を早急に考え実践する時です。全国に先駆けて行いたいものです。